

1. 青年学者 D. ツェデブの編纂した『『モンゴル近代文学簡史』 関連作品事項年表』について
岡田和行（東京外国語大学名誉教授）

【発表要旨】

本発表は、学術作家ドジョーギーン・ツェデブ（Дожоогийн Цэдэв, 1940~）が若手研究者だったときに編纂した『『モンゴル近代文学簡史』 関連作品事項年表』（“Монголын орчин үеийн уран зохиолын товч түүх”-д холбогдох зохиол, тэмдэглэлт үйл явдлын он дараалсан жагсаалт”, 1968）のもつ意義を二つの面から考察したものである。第一に、D. ツェデブの作成したこの「年表」は、文学史的に重要な意義があり、研究上の基本的な文献でもあるが、歴史的な観点から見ると、いくつかの点で「迫害」を受け、そして「復権」を遂げたことが判明した。本発表ではその事情と理由について取り上げた。第二に、D. ツェデブの編纂したこの「年表」を日本の若手研究者の赤石洋通（AKAISHI Hiromichi）がどのような経緯で日本語に翻訳し紹介したのか、この「年表」が日本におけるモンゴル近代文学研究にいかなる寄与を果たしたのかという問題について取り上げた。なお本発表は、2021 年 3 月 21 日にウランバートルで開催された一部リモート式の国際学会「ドジョーギーン・ツェデブの著作活動 60 周年」（“Дожоогийн Цэдэвийн туурвилын жаран”）に提出したモンゴル語論文に基づいている。

【発表言語】 日本語

2. Б. Явуухулангийн “Тэхийн зогсоол” дууль найраглалын уран сайхан, утга агуулга

（В. Ябөр-Холанの長編譚詩「テヒー・ゾグソール〔死期をさとした野生の雄山羊のたたずむ岩山の頂〕」の芸術性と意味）

Гомбосүрэн ГАЛБАЯР（ゴンボスレン・ガルバヤル）

（Монгол Улсын Их Сургуулийн профессор（モンゴル国立大学教授））

【発表要旨】

本発表では、第一に、詩人ベグズィーン・ヤボーホラン（Бэгзийн Явуухулан, 1929-1982）の名前の由来について説明した。第二に、発表者自身の評価の観点から、モンゴル詩の歴史的な発展と変化に特に貴重な貢献をしてきたこの詩人の作品の中から「テヒー・ゾグソール（Тэхийн зогсоол）〔死期をさとした野生の雄山羊のたたずむ岩山の頂〕」（1969）という長編譚詩（дууль найраглал）を取り上げ、この詩を書くにいたった詩人の根底にある想念とこの詩に関する先行研究について概観した。第三に、これまでの先行研究を見ると、この詩を芸術性と意味の面からさらに体系的に詳しく研究する必要があると思われる。たとえば、こ

の「テヒーン・ゾグソール」という作品は、ジャンルの点では譚詩（дууль / ballad(e)）に含まれる作品であり、譚詩は平易な語によって芸術的に書かれた作品である。平易な語によってどのように芸術的な表現を創作し、その芸術的な表現によってモンゴル詩の歴史的な発展にどのような特筆すべき刷新をもたらしたのかを取り上げて考察した。さらに、この譚詩のもう一つの芸術的な特徴が、時間と空間の描写において色彩感覚を特殊な形式で表現している点にあることを明らかにした。言い換えれば、遠近の空間的な運動を青色の濃淡の特質を使って特殊な形式で表現していることが指摘できる。作品の意味については、野生の雄山羊の最期の描写を通して、自然と動物（人間）の親密な関係とその重要性を表現し、「死」という意識を浄化（カタルシス）することを意味していると分析し解釈した。最後に、狩人とはただ単に狩猟をする存在ではなく、自身を取り囲む自然と地域を調査研究し愛護する存在であるとともに、それらの主人の役割も果たしているということが、どのように表現されているかも明らかにした。

【発表言語】 モンゴル語

3. D.ニャムスレンの詩にみる“移ろいめぐるもの”

—詩「四季（Дөрвөн цаг）」の魅力と特徴についての考察—

阿比留美帆（東京外国語大学非常勤講師）

【発表要旨】

D.ニャムスレン（1947-2002）は生涯の多くをドルノド県の小さな国境の地エレーンツァブで過ごした詩人で、生前出版した詩集は多くはないが、没後再評価されモンゴルの重要な詩人の一人と認識されるに至った。本発表ではニャムスレンの詩の魅力や特徴とは何かについて、彼の代表作の一つである詩「四季」を例に読み解くことを試みる。また、四季を題材とする近現代モンゴルの詩群のなかで、この詩がどのような位置付けにあるかを考察する。

【発表言語】 日本語

4.モンゴル英雄叙事詩『ジャンガル』における生殖崇拜について

ボルジギン・フスレ 昭和女子大学教授

【発表要旨】

モンゴルの英雄叙事詩には、スキタイや匈奴、突厥、そしてチベット仏教の要素が含まれており、複数の異なる時代の社会や文化要素が沈殿している。性崇拜もその一つである。本報告は、ハリー・カトナー（Harry Cutner）、O.A. ウォール（O.A. Wall）の性崇拜の理論とワルター・ハイシッヒの研究に基づいて、モンゴルの英雄叙事詩『ジャンガル』における矢、

長槍，大旆，赤柳，裂け目のある岩，洞窟，洞窟での再生，貴重の葉，小魚，鱒，卵を産んだ白鳥の鳴き声などのモチーフを焦点に，考察，検討し，その文化的内包を明らかにする。

【発表言語】 日本語

5. スウェーデン宣教師が見たチャハル地域のモンゴル

—①スウェーデン児童文学作家ウルフ・ニルソン（Ulf Nilsson）の源流及び『長い灰色の歯』について—

都馬バイカル 桜美林大学教授

【発表要旨】

スウェーデン宣教師 J・エリクソン (Joel Eriksson. 1890～1987) は、25 年間 (1913～1938) も内モンゴル・チャハル地域で宣教師活動と教育や医療活動をしていた。その間撮影した写真は、ゆうに 1300 枚以上あり、当時のチャハル地域の歴史と社会実態の研究にとって、その写真は極めて貴重な資料になる (拙著『スウェーデン宣教師が写した失われたモンゴル』桜美林大学出版会、2021 年 3 月)。

当発表では、J・エリクソンの写真に写され、かつ同宣教師たちに育てられたあるモンゴル孤児をめぐる事情を解明したい。というのも、その孤児がまるでエリクソンが播いた「seed」のように、クリスチャンとして成長し、後にその孤児の息子がさらにスウェーデン児童文学作家ウルフ・ニルソン (Ulf Nilsson. 1948～) として成功して受け継がれているからである。

事実、ウルフ・ニルソンの児童文学作品は数多く日本語に翻訳されているが、そのなか未翻訳作品『長い灰色の歯』の背景についても探求したい。

【発表言語】 日本語